

口腔ケア



泉さや香講師

口の中は、体内でどうか、外でどうか？
口の粘膜は皮膚と連続しており、体の外であることが分かると思います。口の中は温度37度、

健康な歯は体の外と内をエナメル質・歯根膜・歯肉でうまく封鎖しております。口の中（体の外）の細菌は体の内へ侵入することができません。しかし、いつたん虫歯や歯周病などに罹患すると、そのバリアーが破綻し、口の中の細菌が体内へ、また細菌が血流に乗つて全身に侵入してしまいます。血管に侵入してしまった歯科医が、歯科医院で治療を受けたことがあります。心臓弁膜症の治療で人工弁置換術を受けたことのある65歳の女性が、心臓弁膜症の痛みと発熱で当院に入院しました。感染性心内

脳・心臓・血管 ワースト脱却処方箋

from 獨協医大

19

湿度100%で栄養がどんどん入ってきます。細菌にとっては、とても過ごしやすい環境です。そしてそこには「歯」という極めて特殊な臓器が頸の骨に突き刺さっています。歯の頭（歯冠）は口の中という体の外に存在し、歯の根っこ（歯根）は頸の骨の中という体の内に存在しております。血管・心臓・脳につながっています。

体全体の感染症を予防

身へと運ばれ、感染性心内膜炎・心臓弁膜症・動脈硬化・心筋梗塞・脳梗塞・脳出血のリスクを高めるとされています。実際に心臓の弁や動脈硬化部分の血管壁から歯周病菌が検出されます。

それでは、実際の症例をお話します。心臓弁膜症の治療で人工弁置換術を受けたことのある65歳の女性が、心臓弁膜症の痛みと発熱で当院に入院しました。感染性心内

膜炎の診断で、さまざまな抗菌薬の治療を行つていましたが効果は見られません。調べると、血液中からカンピロバクターという細菌が検出されました。

この細菌は牛や豚などの家畜や鶏などの腸管に広く存在している菌で、本来は人間の体内に常 在する菌ではありません。侵入経路を検索したところ、患者さんは当時、生レバーや生肉を食べる



ことを好んでおり、生肉の中の菌が虫歯の大きな穴から血中に侵入し、感染性心内膜炎を発症したと考えられたのです。この症例は特殊ですが、虫歯や歯周病があると、そこから侵入した細菌がいろいろな心臓・血管疾患を引き起こします。重度の歯周病がある人の歯と歯肉の間の歯周ポケットは手のひらを広げた大きさになり、細菌の入り口になります。

適切な歯の治療と健全な口腔状態の維持（口腔ケア）は、全身の感染症予防と言えます。何か病気が発症したときに慌てて口腔ケアをするのではなく、いつもきれいに整えられているお部屋はいふ来客があつても平気なように、日頃から信頼できる歯科医院で治療・メンテナンスを継続的に行なうことが重要です。

講師

(獨協医大口腔外科学
泉さや香)

(毎週金曜日掲載)